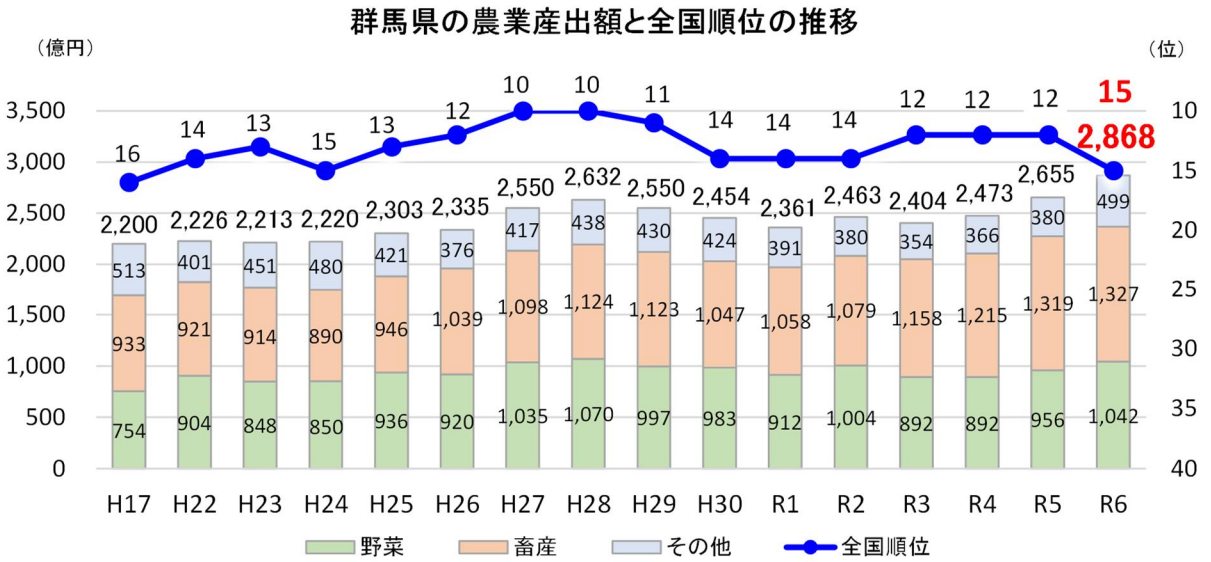
４．令和７年度実績の概要

「群馬県農業農村振興計画 2021-2025」の最終年度となる令和７年度は、基本目標である「未来へ紡ぐ！豊かで成長し続ける農業・農村の確立」の達成に向け、農業の持続的な発展を促進する「産業政策」と、農村の持続的な発展を促進する「地域政策」を車の両輪として、担い手の確保・育成、収益性の高い農業の展開、県産農畜産物の需要拡大、魅力ある農村づくりなどを総合的に進め、計画の総仕上げを図りました。

生産性向上や高付加価値化に向けた各種施策を進めたことに加え、気候変動による異常気象や国際情勢の影響による生産コストの上昇に伴う農産物価格の上昇、米価の急騰も重なり、群馬県の農業産出額（令和６年）は前年に比べて 213 億円（8.0%）増加し 2,868 億円となりました。また、都道府県別順位は 15 位となりました。



＜施策の達成状況＞

基本施策１９項目の達成状況は以下のとおりとなりました。

Ａ：５項目	Ｂ：５項目	Ｃ：７項目	Ｄ：２項目

判定	内容（達成状況）
A	計画どおり達成（または概ね達成）している。（100%≦達成状況）
B	達成ではないが、順調に推進している。引き続き、達成に向けて努力する。（80%≦達成状況＜100%）
C	達成に向け努力が必要。必要に応じて施策の展開内容等を再点検し、見直しを検討する。（50%≦達成状況＜80%）
D	達成に向け大きく努力が必要。かつ、施策の展開内容等を再点検し、必要に応じて抜本的に見直す。（達成状況＜50%）

Ⅰ　未来につながる担い手確保・育成と経営基盤の強化

新規就農者や担い手の確保･育成に向けては､就農相談会等への出展機会の増加､就農ポータルサイトの刷新など情報発信を強化するとともに､農業体験やファームトレーニングによる就農準備支援の充実を図りました｡その結果､新規就農者数(45歳未満）は計画期間累計で 933 人となり最終年度目標を達成しました。また、「ぐんま農業版企業誘致促進」の開始により企業参入の加速化を図るとともに、共同受注窓口と連携した農業者と障害者福祉事業所等とのマッチング支援により､多様な担い手の確保を進めました。

力強い農業経営体の育成に向けては、農業経営士、農村生活アドバイザー、青年農業士の認定や各種研修、女性農業者支援を実施しました。「全国優良経営体表彰」では、計画期間５年間のうち３か年で農林水産大臣賞を受賞し、本県の農業経営体の高い経営力が評価されました。

将来にわたる地域農業の持続的な発展に向けては、「地域計画」の見直しを支援し、令和８年３月までに 29 市町村 199 地域で計画のブラッシュアップが行われました。また、農地中間管理事業や遊休農地再生利用事業による担い手への農地集積･集約化と遊休農地の有効活用、生産基盤整備を契機とした農地集積を進めるとともに、農業水利施設の長寿命化対策や多面的機能支払活動組織の拡大に取り組み、農地・農業用施設の保全と地域農業の持続性向上を図りました。



就農ポータルサイト「ぐんナビ」の開設


農地の区画整理と担い手への農地集積
【高山村　原地区】

Ⅱ　次世代につなぐ収益性の高い農業の展開

園芸産地の競争力強化に向けては、「野菜花き生産力強化事業」を開始し、野菜･花き生産者の施設整備や機械導入を支援するとともに､価格安定対策や施設園芸セーフティネットの加入促進により、農業者の経営安定化を図りました。

畜産振興では、ゲノミック評価の活用による家畜改良を推進するとともに、全国和牛能力共進会を見据えた優良素牛の確保や､輸入粗飼料価格高騰対策を実施しました。また、豚熱や高病原性鳥インフルエンザ発生予防として、飼養衛生管理基準の遵守指導や消毒薬の配布を行うなど、防疫体制の強化を図りました。

水田振興では、高温耐性品種「にじのきらめき」や「いなほっこり」の導入を進め、気候変動への適応を推進しました。また、麦類と新規需要米の二毛作を基本に高収益作物を導入するぐんま型「水田フル活用」を推進し、水田農業の収益性向上と経営安定化を図りました。

新技術・新品種の研究開発では、「ぐんま農業研究基本計画」に基づき、ブドウ新梢管理装置やいちご新品種、新ブランド魚「超絶サーモンＶ３」等の研究成果を創出しました。また、施設園芸における環境制御技術やＩＣＴ活用の実証を進めるとともに、普及指導員の指導力向上を図り、先進技術の現地実装を進めました。



農場における飼養衛生管理指導



県育成ブランドニジマス３品種の一体的な PR

Ⅲ 豊富で多彩な県産農畜産物の需要拡大

県産農畜産物のブランド力強化に向けては、G-アナライズ＆ＰＲチームによる分析を通じて、なす及びやまといもの強み・特長を明らかにしました。また、その成果を活用し、「群馬なす」の機能性表示食品に係る届出が消費者庁に受理されました。さらに、GUNMA EXCELLENCE 認証、群馬県農業統一ロゴマーク(GUNMA JAPAN)の運用開始により、県産農畜産物の一層の認知度向上を図りました。

輸出拡大に向けては、台湾、香港、イスラエルを対象とした商談会や現地ＰＲ販売を通じて、白菜、キャベツ、いちごなどの販路拡大を推進するとともに、欧州での上州和牛プロモーションや“日本の食品”輸出ＥＸＰＯへの出展により、こんにゃく加工品等の海外販路の開拓を進めました。また、残留農薬検査への支援や海外商標出願、輸出促進支援員による伴走支援を実施し、輸出基盤の強化と輸出に取り組む事業者の育成を図りました。

地産地消と食育の推進に向けては、ぐんま地産地消推進店の認定拡大や学校給食における県産農畜産物の利用促進に取り組むとともに、健康フェスタや地域食文化継承講演会等の開催を通じて、和食や郷土料理をはじめとする本県の豊かな食文化への理解促進を図りました。

食の安全・安心の確保に向けては、対面、オンライン、動画配信等様々な手法でリスクコミュニケーション事業を実施するとともに、農薬の適正使用や動物用医薬品の適正販売に関する指導・啓発を行いました。



GUNMA EXCELLENCE 認証の創設



“日本の食品”輸出 EXPO への出展

Ⅳ 魅力あふれる農村の持続的な発展

地域特産物の振興に向けて、養蚕では「ぐんま養蚕学校」等を通じて新たに２経営体が参入し、新規参入者による繭生産量は県全体の 57%を占めるまでに拡大しました。水産では、ハコスチの安定供給に向けて水産試験場の改修を進めるとともに、きのこでは、学校給食での活用や品評会、料理コンクール、各種情報発信を通じて消費拡大を図り、原木きのこ生産基盤の整備を支援しました。

環境保全型農業の推進に向けては、ぐんまエコファーマー認定（みどり認定）、県特別栽培農産物認証、有機ＪＡＳ認証の各段階に応じた取組を推進し、環境負荷低減・資源循環型農業の実践者の拡大を図りました。また、病害虫発生予報等の迅速な情報提供や、クビアカツヤカミキリなど重要病害虫の防除対策を実施し、適切な病害虫管理を推進しました。

農村地域の防災・減災対策については、防災重点ため池のハザードマップ作成や豪雨・地震耐性評価を計画的に進めるとともに、ため池サポートセンターによる現地パトロールや管理者への指導を実施しました。また、地すべり防止対策や調整池整備等を実施し、農村地域の安全・安心の確保を図りました。

野生鳥獣被害対策では、ニホンジカ等の適正管理や市町村における被害防止活動を支援するとともに、ＧＰＳを活用した群馬県・長野県連携による広域捕獲、被害対策を担う人材の育成、集落ぐるみの被害防止活動を推進しました。さらに、豚熱対策として、野生イノシシの移動経路周辺における緩衝帯整備を進めるとともに、ジビエ利用の拡大を支援し、鳥獣被害の軽減と地域資源の有効活用を図りました。



ぐんま養蚕学校（蚕糸技術センターでの研修）



防災重点ため池の耐震補強工事
【藤岡市　大谷池】

Ⅴ　ニューノーマルがもたらす農村の新たな価値の創出

関係人口の拡大に向けて、大学生等で構成する「やま・さと応縁隊」が地域住民との交流を通じて、農山村の課題解決や魅力発信、地域資源の掘り起こしに取り組みました。また、農泊体験ツアー商品の造成やオーガニックビレッジでのモニターツアーの実施、それらの取組を紹介するＰＲ動画や農泊実践者へのインタビュー記事の発信により、農村地域の魅力発信と誘客促進を図りました。さらに、ぐんま農泊推進ネットワーク会議等を通じて、実践者同士の連携強化や受入体制の充実を図りました。

多面的機能の維持・発揮に向けては、多面的機能支払交付金を活用した地域ぐるみの保全活動を支援し、取組組織の拡大につなげました。また、土地改良区を中心とした広域組織も８組織から 11 組織へ増加し、持続可能な活動体制の構築が進みました。また、中山間地域等直接支払交付金により中山間地域等における営農活動を支援し、農地・農業用施設の保全管理、農村集落機能の維持・強化を推進しました。これらの取組を通じて、農村地域の活力向上と持続的発展に向けた基盤づくりを進めました。



ぐんま農泊モデルコース
「農泊×有機農業」PR 動画



小学生が参加した田植え体験
（多面的機能支払交付金を活用した活動）